



①今も三尾地区にあるアメリカ村というバス停。②潮風の休憩所。には当時の潜水服などが展示されている。住所／東牟婁郡串本町潮岬2865-1 ③エビとカニの水族館。は、南弥右衛門が建設費用を寄附した元江住中学校体育館。住所／西牟婁郡すさみ町江住 808-1

「移民県」でもあったといわれる和歌山県。海に面した地形に、チャレンジ精神旺盛な紀州人。まだ見ぬ水平線の向こうに、夢を求めて船を漕ぎ出す姿は、想像に難くない。

「アメリカ村」と呼ばれているのは、美浜町三尾地区。明治時代から多くの人がカナダに移住し成功を納め、帰国した人たちが、洋風の家を建て暮らしていたことから、そう呼ばれるようになったという。串本周辺の人々が向かったのはオーストラリア。重いヘルメットと潜水服を装着し、高級ボタンなどの原料となる白蝶貝や真珠を採るために多くの男たちが渡ったという。また、すさみ町出身の南弥右衛門（みなみやえもん）は、アメリカで大規模な農園を営み成功し「サンタマリアのレタス王」と呼ばれ、在米邦人の経済的發展に貢献した。ちなみにすさみ町は、昭和16年頃からレタス栽培が始まったことから、日本のレタス栽培の発祥の地とされている。

## 海を越えた和歌山の文化

### 新天地を求め、海の向こうへ。和歌山の移民文化。



今から約750年前、鎌倉時代に和歌山で生まれた醤油。寛心和尚（法燈国師）という禅僧が、中国で修行しながら径山寺で「なめ味噌」の製法を学び、和歌山でその製法を広めた。それは大豆等で作った麴に塩を加え、夏野菜を熟成させた食べる味噌「金山寺味噌」で、その時湧き出る非常に美味しい上澄み液から醤油は生まれたといわれている。

湯浅周辺で醤油造りが盛んになったのは、醤油にとって重要な上質な水と海運に恵まれていたからだといわれている。江戸時代になると、醤油造りは徳川御三家紀州藩の保護を受け、湯浅港近くの

海を越え渡ってきた金山寺味噌、そして和歌山で醤油文化が生まれた。

大仙堀周辺に百軒近い醸造所が立ち並び、都会である江戸や大坂にたくさん出荷されるようになる。こうして紀州の醤油は日本全国に知られるようになり、さらには外国へも輸出されるようになった。醤油は、ユネスコ無形文化遺産に登録されている和食と共に世界中で愛される調味料となった。

現在でも湯浅周辺には、1年以上かけて仕込む、昔ながらの製造方法を守り続けている醤油蔵がある。海を渡ってやってきた径山寺の味噌と、海を渡り世界中で親しまれる醤油。紀州人の創意工夫と職人たちが今も守り続ける伝統にも、語り尽くせない物語がある。

三方を海に囲まれた紀伊半島。その大部分を占める和歌山は、木の国でもあり、海の国でもあり、太古の昔から海上交通の要衝でもあった。文明は海を行き来し、互いに影響を及ぼしながら、新たな文化を生み出してゆく。海を越え、和歌山で育った文化を見てみたい。

### 弘法大師空海が唐から持ち帰った備長炭の窯の秘密。

上質なことで有名な紀州備長炭は、白炭の一種であり、この製造方法を中国から日本に伝えたのが、弘法大師・空海といわれている。空海は密教修行の場として高野山を開き、ここを拠点に、唐で得た最新技術なども広めた。その中のひとつに白炭の製造技術があり、瞬く間に紀伊半島全域にその技術が広まったといわれている。また紀州備長炭が上質である秘密は、窯の奥にあげられている「大師穴」と呼ばれる排煙口の位置にあるんだとか。



紀州備長炭は、和歌山県の県木ウハメガンを原料に作られる。鋼鉄ほどの硬度があり、叩いてみると、キーンとクリアな音を出すのが特徴。

### お菓子文化の発祥地が和歌山？

海南市下津町の橋本（きつもと）神社に祀られているのは、お菓子の神様・田道間守（たちまもり）。垂仁（すいにん）天皇の命により不老長寿の霊薬を探し求め、中国から持ち帰った霊薬が、ミカンの原種「橘」といわれている。田道間守の死後、その「橘」は橋本神社に植えられ、甘くて美味しいその「果実」は、「お菓子」として食べられるようになり、橋本神社はお菓子の神社として全国の菓子業者から崇敬を集めるようになったという。



### ベトナムに温州みかんを初輸出

国産温州みかんのベトナムへの輸出が解禁されたことを受け、2021年11月、全国で初めて和歌山県特産のみかんが輸出されることになった。ハノイ、ホーチミンのスーパーなどで販売が開始され、市場から高い評価を得ている。



### 新型コロナワクチン開発に欠かせない mRNAの原料供給に貢献する醤油造り

紀州の初代濱口儀兵衛（はまぐちぎへえ）が創業したヤマサ醤油。七代目当主は、稲むらに火をつけ、津波から村人たちを救い「A Living God」と称される濱口梧陵（ごりょう）である。その企業が今、シュードウリジンの製造で世界から注目を集めている。これは、新型コロナワクチンのmRNA合成用素材。同社では以前から医薬品原料を製造販売しており、ワクチン安定供給のため、製造体制の整備を行っている。梧陵の志は、今も息づいている。

